

第1回 世界柔道形選手権大会



第1回世界柔道形選手権大会は、2009年10月17日18日、地中海マルタ共和国の首都バレッタの Cottonera Sports Complex において、24ヵ国、82組が参加して開催された。参加国は、ヨーロッパ15、バンナム4、アジア3、オセアニア1、アフリカ1であった。

国内では、1997年に第1回全日本柔道形競技大会が実施され、年々形への興味・関心は高まりを見せている。また、世界的に見ても勝利至上への偏重からくる柔道の乱れに抗うように、形の修行を通して正しい柔道を見つめ直そうという気運が高まってきている。2007年には、第1回講道館形国際競技大会が実施され、2009年には、パリにおいて、形ワールドカップが行われた。この流れを受けて今回、IJF主催による第1回の世界柔道形選手権大会が開催された。

ワールドカップにおいて、投の形が準優勝に終わったことへの危機感もあり、全柔連に形特別委員会を設置し、選手の選抜を行った。特に「投の形」と「極の形」については、選考会を実施し万全を期した。

選手選考後、3回の合同強化合宿、2回の個別合宿を行った。9月の連休を利用した合宿においては、上村春樹会長をはじめ、

小野沢弘史専務理事、形特別委員会メンバー全員が見守る中、総見を行うなど、内容的にも非常に充実した強化を行うことができた。

その結果が、今回の全種目制覇につながったことは間違いない。しかし、ヨーロッパをはじめとした選手たちのレベルは、年々めざましく向上してきている。日本が現状に甘んじているようでは、近い将来この成績は、逆転してしまう怖れさえある。今後、形特別委員会を中心に、形の普及発展と併せて選手強化の充実を図ることが必要不可欠である。

形は正しい柔道を学ぶ手段であり、技の理合いを正しく表現する本物の形を世界中に普及させることは、柔道発祥国である日本の責務でもある。形の演技を通じて、講道館柔道の素晴らしさを示し、正しい柔道を世界に発信し続けるためにも、柔道界を挙げて着実に取り組んでいきたい。

全柔連 形特別委員会委員 向井 幹博



投の形表彰

実施種目と結果は、以下の通りである。

《投の形》

- 優勝 近藤克幸・大河内哲志 (日本)
- 第2位 CAMACHO Raul / CAMACHO Roberto (スペイン)
- 第3位 SURLA Lulian / FLEISZ Aurelian (ルーマニア)

《固の形》

- 優勝 松本裕司・中橋政彦(日本)
- 第2位 GOICOECHANDIA Juan / VILLAR Roberto (スペイン)
- 第3位 PROIETTI Stefano / DILELLO Stefano (イタリア)

《柔の形》

- 優勝 横山悦子・大森千草 (日本)
- 第2位 VOLPI Ubaldo / CALDERINI Maurizio (イタリア)
- 第3位 SOZZI Ilaria / FRITTOLOI Marta (イタリア)

《極の形》

- 優勝 竹石憲治・植松恒司 (日本)
- 第2位 BLAS Fernando / CHUNGSEU Uchan (スペイン)
- 第3位 DE CERCE Giacomo / PADOVAN Pierluca (イタリア)

《講道館護身術》

- 優勝 濱名智男・山崎正義 (日本)
- 第2位 MAINENTI Daniele / FACCIOLI Andrea (イタリア)
- 第3位 JESUS Verano / MAXIMO Gonzales (スペイン)



極の形、講道館護身術 優勝者たち



柔の形演技

入賞国

	金	銀	銅	計
日本	5	0	0	5
スペイン	0	3	1	4
イタリア	0	2	3	5
ルーマニア	0	0	1	1



日本選手団